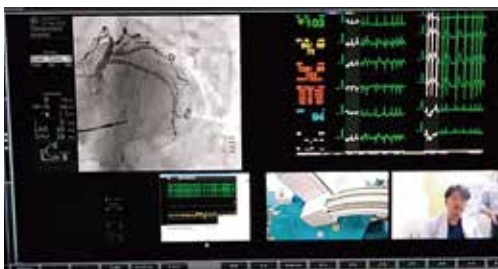


手術映像の保存システム、遠隔コミュニケーションツールなどを開発

テレビ番組、ビデオ、DVD、YouTubeなどの映像制作を手掛けるほか、手術映像データベースシステムや、リアルタイム動画で人と人をつなぐ遠隔コミュニケーションツールなどの企画・開発を行う。



▲リアルタイム伝送検証のアンギオ手術室



▲「キズナウェブアンギオ」の完成した伝送映像画面



▲映像伝送検証中の医師

稚内の手術現場を名寄から支援。医療現場の効率アップと負担軽減～増える“循環器カテーテル診療”を専門医がどこからでも支援できる「アンギオ双方向遠隔支援システム」の開発と普及活動～

専門医がどこからでも支援できる「キズナウェブアンギオ (Angio)」。

ボーダレスビジョン株式会社では、手術映像の保存管理ができるデータベースシステム「オペラビジョン (OperaVision)」やリアルタイム動画で人と人をつなぐ遠隔コミュニケーションツール「キズナウェブ (KizunaWeb)」を企画・開発している。

今回同社が取り組んだのは、循環器カテーテル診療を専門医がどこからでも支援できるアンギオ双方向遠隔支援システム「キズナウェブアンギオ (Angio)」だ。これは、遠く離れたA地点とB地点で同時に6つの画像を共有しながらやりとりをすることができるというもので、実際に行った伝送検証では、稚内でカテーテル検査を行う医師に、名寄の専門医が画像を見ながら助言を行った結果、患者には今すぐの緊急性はないので大丈夫だと判断したという例がある。このシステムを導入することで、医師が遠距離を行き来する負担が減り、患者も遠方から来る医師の予定に合わせて来院する必要も

なくなる。専門医の支援があることで、現場での判断がより的確になり、オーバートリアージを防ぐことにもなるという。

特別な機材は必要なく、パソコン、スマホ、タブレットで操作可能。

開発中に持ち上がった課題は、データ送信量が多いと遅延が大きくなったり映像が乱れるということだったが、伝送する中身＝プログラム構成やデータを送る時の手順などを工夫したという。「キズナウェブアンギオ」は、ウェブブラウザで動かすことができ、クラウドなのでソフトのインストールは必要ない。パソコンやスマホ、タブレットで利用できるのも、特別な機材も導入しなくてもよくイニシャルコストが格安というメリットもある。代表の佐々木さんは「現場の医師はすぐにでも導入したいと言ってくれる。病院経営者や運営組織などにも、患者のためになり、地域貢献に役立つことを理解してもらいたい」と話してくれた。

逐次俯瞰して
見ることができました。

ボーダレスビジョン株式会社
代表取締役
佐々木 春光



支援を受ける中、進捗報告を提出するのですが、そのおかげで、自分たちが今どこまでできているのか、事業の進め方などを俯瞰して見ることができました。開発だけではなく普及も目指しているので、どこに、誰に向かっていくのかという方向性も見えてきたと思います。